水都日野

みず くらし まち

水辺のある風景 日野50選

みず くらし まち

水辺のある風景 日野50選

「水都日野　みず・くらし・まち　水辺のある風景日野50選」
[発行日]2014年2月28日／[発行]日野市：日野市神明1-12-1

みず・くらし・まち 目次

水辺のある風景日野50選

「水辺のある風景 日野50選」に寄せて
日野市長 大坪冬彦 p1

エリア区分図 p2

エリア1. 多摩川・日野用水

01. 平堰－日野用水の源 p6
02. 東光寺の小さな棚田 p7
03. 日野用水下堰親水路 p8
04. 上堰の田んぼと水路のある風景 p9
05. よそう森公園－田んぼのある公園 p10
06. 水車堀公園 p11
07. 精進場 － 禊の水辺 p11
08. 仲田の森蚕糸公園 － 新たな水辺の創造へ p12
09. 谷仲山・東光寺第一緑地－崖線からの湧水 p13
10. 日野用水上堰開渠 p14
11. 日野宿を支えた用水 p15
12.多摩川－ 悠久の時が流れる水辺 p16

■コラム 水辺の生きもの p18

エリア2. 浅川・豊田用水・黒川水路・上田用水・新井用水

13. 豊田用水取水口－豊田用水の源 p19
14. 豊田用水上流－風景をつくる用水p20
15. ハケ（崖）下の別荘 p21
16. 八幡神社下湧水（中央図書館下湧水） p22
17. カワド（洗い場）のある家 p23
18. 用水沿いの黒塀の家 p24
19. 清水堀と旧道のまち並み p25
20. こだわりの橋の架かる水路 p26
21. 東豊田の田んぼと水路のある風景 p27
22. 黒川清流公園 p28
23. 上田用水－絵図に描かれた用水 p30
24. 新井用水親水路 p30
25. 根川下流－桜の名所 p31
26. 多摩川・浅川合流点 p31
27. 浅川－ 日野の座標軸p32

■コラム 浅川一本、みんなで遊ぼう! p34

エリア3. 浅川・川北用水・上村用水・平山用水・南平用水

28. さいかち堰上流沼・川北用水－吊り堰と鳥の楽園p35
29. 上村用水－変わりゆく田園風景 p36
30.平山用水取水堰－平山用水の源 p37
31. 大福寺下公園－桜並木の親水路 p38
32. 平山用水ふれあい水辺 p39
33. 南平の田んぼのある風景 p40
34. 自噴井のある家 p41
35. 南平駅前・児童館付近用水－市民による水辺創造 p42
36.七生中学校自噴井－ 生きものを育む水辺 p43
37. 学校農園・ビオトープ－命を学ぶ水辺 p44
38. 南平用水・谷戸川 －絵図に描かれた用水 p45
39. 用水の分水・立体交差－巧みな水路システム p46

■コラム 南平・水辺風景の変遷 p47

■コラム 水辺の植物 p48

エリア4. 浅川・程久保川・向島用水・落川用水・一の宮用水

40. ふれあい橋・向島用水取水堰 p49
41. 向島用水親水路－生きものにやさしい水辺 p50
42. 新井の田んぼと水路のある風景 p52
43. 新井の微高地を流れる用水 p54
44. 小沢緑地湧水 p54
45. 程久保川遊歩道とワンド p55
46. 落川公園－水に囲まれた公園 p56
47. 真堂が谷戸 p57
48. 三沢の小さな棚田 p57
49. 倉沢の田んぼのある風景 p58
50. 程久保川源流 p59

■ギャラリー 清流ポスター p60

番外編

1. 谷地川を横断する日野用水 p62
2. 段丘崖を流れる日野用水下堰p62
3. 変わりゆく水田風景 p63
4. 変わりゆく里山の風景 p63
5. 消えゆく湧水・西平山八幡神社 p64
6. 樹林の中を流れる用水・落川交流センター p64
7. 親子で賑わう水辺・東豊田公園 p64

■水辺50選プロジェクトの進め方 p65

「水辺のある風景 日野50選」に寄せて

かつては、多摩の米蔵といわれるほど米づくりが盛んであった日野市ですが、現在は果樹と野菜の生産が中心の都市農業のまちになっています。

市内には多摩川・浅川から水を引く用水路が網の目のように流れ、日野市の農業を支えてきました。その長さは116㎞にも及びます。高度経済成長と人口急増による地下水の汲み上げや、生活雑排水の流入により河川・用水の汚染が日野市でも問題になり、昭和51年に「日野市公共水域の流水の浄化に関する条例」（現「日野市緑化及び清流化推進に関する条例」）を制定し、以来「緑と清流」を目指すまちづくりがおこなわれてきました。その到達点として「すぐ手の届くところに水や緑がたくさんあります」という今の日野市の姿があります。

昨年、日野市は市制施行50周年を迎え、様々な記念事業を行い、多くの市民の皆様とともに50周年をお祝いしました。そのことを節目に今後の50年を考えるきっかけとしました。また、昨年1月にまとめた50年ビジョンでは将来の日野市の姿を「水都日野」と定めています。この間の先進的な、用水や湧水を保全しそれを活かしたまちづくりを振り返りつつも、さらに一歩前に進む「水都日野」をどのように実現させるかを市民とともに考える試みとして、「水辺のある風景 日野50選」を企画しました。

昨年6月29日の水の郷フォーラム「日野の宝、守るべき水辺とは」を皮切りに、水辺50選ワーキンググループ会議とエリアワークショップを車の両輪にした、現地調査を含む選定作業を行い、多くの市民から推薦された「お気に入りの水辺」の数多くの候補から、後世に残すべき50選を決定しました。この取り組みは市民、行政職員、法政大学エコ地域デザイン研究所の協働により行われたものです。

これからは、この「水辺のある風景 日野50選」をどのように今後のまちづくりに活かしていくのかが問われます。市制施行50周年を迎えた日野は、「すぐ手の届くところに水や緑がたくさんあるまち」でありました。10年後、20年後、そして50年後の日野市がどのように表現されるかが楽しみであります。

結びに、今回の選定に関わられたすべての皆様のご尽力に心より感謝申し上げるとともに、この50選が今後の日野市における自然環境と水辺の保全に寄与し、さらに豊かなまちの実現に結びつくことを願って、私からの挨拶といたします。

日野市長　　大坪　冬彦

■エリアマップ

●エリア区分について

水辺50 選の選定にあたり、水系毎に日野市内を4 つのエリアに分けました。それぞれ水の流れを辿ることで50 選を訪ねることができます。50 選の場所を訪ねるとともに水がどこから来てどこへ流れていくのか、どこで枝分かれし、どこで合流するのかその水の仕組みや周りの環境の変化も楽しみながら歩いて頂けたらと思います。

●エリアの特徴

第1エリア
多摩川・日野用水（新町・栄町・日野本町・日野）

多摩川右岸の日野用水エリアです。上堰、下堰の２本の幹線があり、用水路の長さも流域面積も市内では最大です。下堰は上堰から分水しています。南側の日野台地（東光寺台地）からの湧水がわずかですが流入します。下堰、上堰沿いにはところどころに水田もあります。日野駅周辺には複数の水路があり、日野市もその保全整備に力を注いでいます。下流では土地区画整理事業が行われており、用水路の整理統合が進んでいます。

第2エリア
浅川・豊田用水・黒川水路・上田用水・新井用水
（豊田・東豊田・川辺堀之内・上田・宮・万願寺・石田）

日野市中央を東西に貫流する浅川の左岸エリアです。浅川から取水する豊田用水には、日野台地からの湧水が流れ込み、段丘下を東へ流れ、上田用水に流入し、そして上田用水は新井用水へ流れ込みます。豊田、川辺堀之内は、土地区画整理事業中のため、変化の激しいエリアです。水田もかなり減少しました。上田用水、新井用水は万願寺地区に入ると区画整理事業により既に整理統合されています。

第3エリア
浅川・川北用水・上村用水・平山用水・南平用水
（西平山・平山・南平）

浅川左岸の西平山地区と浅川右岸の多摩丘陵下に広がる平山・南平地区です。西平山地区は区画整理事業中で風景が大きく変わりつつあります。浅川から取水する平山用水は分水し南平用水、そして高幡用水へと流れ、途中丘陵地からの湧水や自噴水が流れ込みます。この地区の水田は３か所だけとなりました。大きな区画整理事業がなく、水路は比較的昔からの流れを留めています。

第4エリア
浅川・程久保川・向島用水・落川用水・一の宮用水
（新井・高幡・落川・三沢・百草・程久保）

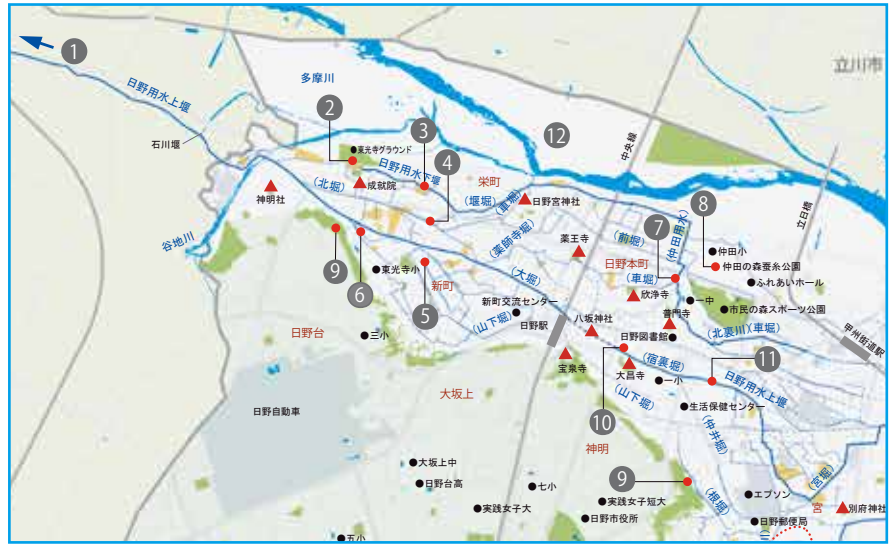
浅川右岸、高幡橋から野猿街道までの低地エリアです。向島用水は浅川から取水し、程久保川に流入します。落川用水は程久保川から取水し、一の宮用水に流入します。このエリアの用水支線は開発によりだいぶ無くなりましたが、幹線は昔からの流れを留めています。向島用水北は大きな区画整理事業も開発もなく、水田もまとまって残り、用水支線や水辺の多いエリアです。

■東京の中の日野市の位置

日野市
人口：179,654 人（外国人住民 2,434 人含む）
面積：27.53 平方キロメートル
鉄道路線：JR 東日本・京王電鉄
多摩都市モノレール
（平成26年2月1日現在）

mapA. エリア１

多摩川・日野用水下堰・上堰

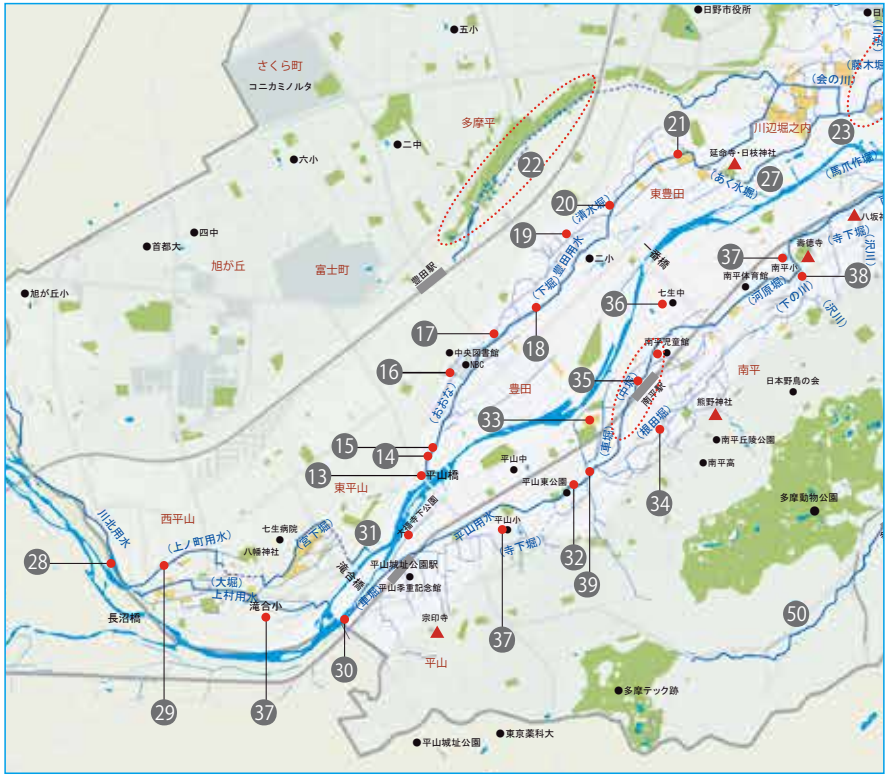


1. 平堰　多摩川
2. 東光寺の小さな棚田　日野用水上堰・下堰
3. 日野用水下堰親水路　日野用水下堰（堰堀）
4. 上堰の田んぼと水路のある風景　日野用水上堰（北堀）
5. よそう森公園　日野用水上堰
6. 水車堀公園　日野用水上堰
7. 精進場　仲田用水・車堀
8. 仲田の森蚕糸公園　日野用水下堰
9. 谷仲山・東光寺第一緑地　日野用水上堰
10. 日野用水上堰開渠　日野用水上堰（宿裏堀）
11. 日野宿を支えた用水　日野用水上堰（宿裏堀）
12. 多摩川　多摩川

※青文字は水系.（）は通称

mapB. エリア 2.3

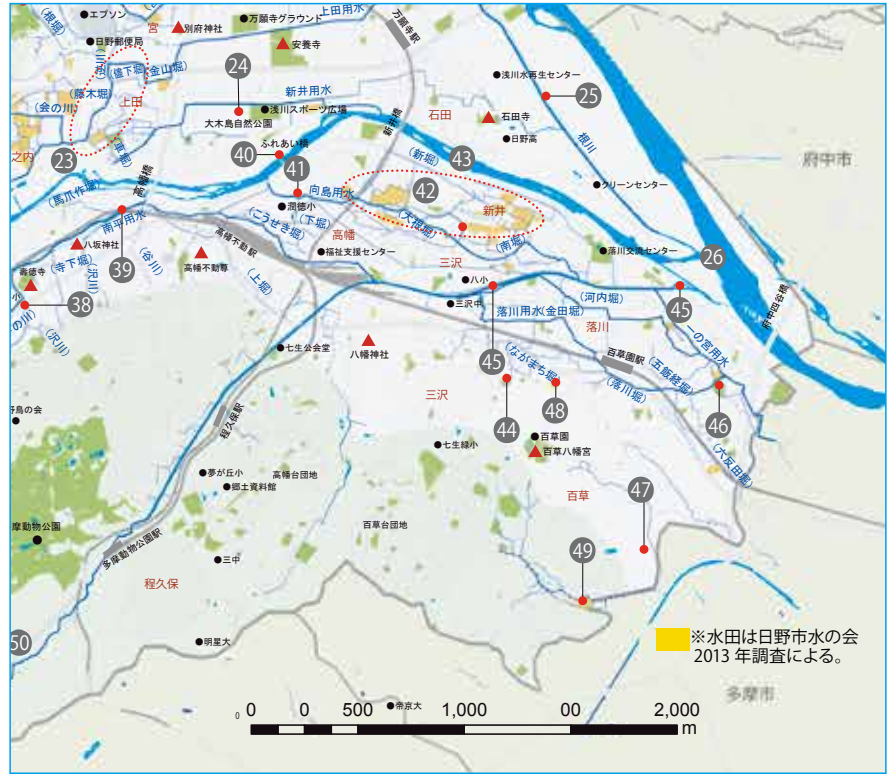
浅川・多摩川・豊田用水・黒川水路・上田用水・新井用水・川北用水・上村用水・平山用水・ 南平用水



13. 豊田用水取水口 浅川
14. 豊田用水上流 豊田用水（おおな）
15. ハケ（崖）下の別荘 豊田用水（おおな）
16. 八幡神社下湧水（中央図書館下湧水） 豊田用水
17. カワド（洗い場）のある家
18. 用水沿いの黒塀の家 豊田用水（下堀）
19. 清水堀と旧道のまち並み 豊田用水・清水堀
20. こだわりの橋の架かる水路 豊田用水
21. 東豊田の田んぼと水路のある風景 豊田用水
22. 黒川清流公園 黒川水路・ 黒川堀
23. 上田用水 上田用水
24. 新井用水親水路（mapC） 新井用水
25. 根川下流 根川
26. 多摩川・浅川合流点（mapC） 多摩川・浅川
27. 浅川 浅川
28. さいかち堰上流沼・川北用水 川北用水
29. 上村用水 上村用水（大堀）
30. 平山用水取水堰 浅川
31. 大福寺下公園 平山用水
32. 平山用水ふれあい水辺 平山用水
33. 南平の田んぼのある風景 南平用水
34. 自噴井のある家 南平用水(根田堀他)
35. 南平駅前・児童館付近用水 南平用水（中堀）
36. 七生中学校自噴井
37. 学校農園・ビオトープ
38. 南平用水・谷戸川 南平用水
39. 用水の分水・立体交差 平山用水・南平用水

mapC. エリア 4

浅川・程久保川・向島用水・落川用水・一の宮用水



※水田は日野市水の会 2013 年調査による。

40. ふれあい橋・向島用水取水堰 浅川
41. 向島用水親水路 向島用水
42. 新井の田んぼと水路のある風景 向島用水
43. 新井の微高地を流れる用水 向島用水
44. 小沢緑地湧水
45. 程久保川遊歩道とワンド 程久保
46. 落川公園 落川用水・一の宮用水
47. 真堂が谷戸
48. 三沢の小さな棚田
49. 倉沢の田んぼのある風景 倉沢川
50. 程久保川源流（mapB） 程久保川

番外編

番 1 .谷地川を横断する日野用水（mapA）
番 2 .段丘崖を流れる日野用水下堰（mapA） 日野用水下堰（北裏川）
番 3 .変わりゆく水田風景（mapB） 豊田用水
番 4 .変わりゆく里山の風景（mapB） 黒川水路
番 5 .消えゆく湧水（mapB）
番 6 . 樹林の中を流れる用水 向島用水（mapC）
番 7 .親子で賑わう水辺 （mapB） 豊田用水

No.1　平堰（たいらぜき）―日野用水の源

八王子市平町 522 付近

日野用水は八王子市平町の平堰から取水し、堰上流八王子側に取水口があります。平堰が完成したのは昭和 37（1962）年で、対岸の昭島まで幅約 500 mの多摩川を横断する大きな堰です。魚が遡上しやすいようにハーフコーン型の漁道も設けられています。平堰周辺は、多種多様の生きものが生息しており、植物もほとんど手つかずの自然として残っています。

日野用水は永禄（えいろく）10（1567）年、約 450 年前に佐藤隼人によりつくられました。日野用水は上堰と下堰の二つの流れがありますが、かつて上堰は現在の平堰より上流、下堰は東光寺裏から取水していました。

現在日野用水沿いは土地区画整理事業や都道建設により田畑が減少していますが、平堰と日野用水、田畑は一体で保全を考えていく必要があります。

ハーフコーン型の魚道

日野用水取水口

棚田の前には東光寺グラウンド

No.2　東光寺の小さな棚田

栄町 5-5 付近

東光寺グラウンドに立つと非常にさわやかな風を感じることが出来ます。このグラウンドの南側に2段の小さいながらも棚田があります。田植えの頃には、茂みの中に隠れている日野用水上堰からの小さな流れがこの田んぼを潤し、２枚の田んぼが水と緑で覆われます。稲刈りの頃になるとトンボやバッタを捕る子どもたちがいます。棚田から東光寺グラウンドを望み、多摩川の土手の緑も十分堪能できる場所となっています。「東光寺の小さな棚田」としていつまでも残したい風景です。

田んぼとグラウンドの間にある「土手」はかつての多摩川の土手でこの辺りから日野用水下堰が取水されていました。取水堰そばのサイカチの木が、変わりゆく東光寺の風景を見守っています。

刈り取った後の棚田　© Rokurou Inou

かつての下堰取水口あたりにあるサイカチの木

No.3 日野用水下堰親水路

栄町 3-14 付近

日野用水下堰はかつて多摩川から直接取水していましたが、現在は上堰の支線北堀から成就院南で分水しています。下堰は東光寺市営団地前を経て、栄町 3 丁目あたりまで親水路が整備されています。桜並木のある市営住宅前は水深も浅く、水路にはたくさんのコイ・フナ・シジミ等が生息しており、子どもたちの水遊びや環境学習の場となっています。水路には魚巣ブロックが設けられており、生きものに配慮した水路構造です。親水路沿いはベンチもあり、疲れたら木陰の下で休むこともできます。田植えの時期に一面に水の張られた田んぼが、収穫の秋には黄金色に輝き、季節感を感じる散歩道です。かっぱ橋の下には泥蜂が巣を作ることが多いため、橋下をくぐる時は気をつけないと頭や肩が泥だらけになることもあります。

上堰 (北堀) からの分水が滝のように流れ落ちる

くぐれるようになっている「かっぱ橋」

元たくあん工場前の田んぼ。正面は東光寺緑地。

No.4 上堰の田んぼと水路のある風景

栄町 4-21 付近

数年前まで上堰 (北堀) 沿いには日野特産の東光寺大根のたくあん工場がありました。大根を洗ったり、干した大根の風景はこの地区の風物詩でした。今でも台地上では東光寺大根がつくらていますがわずかです。低地の用水沿いには田んぼがあり、トマトの栽培も盛んで、収穫期にはトマト販売ののぼりがあちらこちらに立ちます。

北堀は石積み護岸で水深も浅く、微地形をいかし、ゆらぎながら緩やかに流れています。水草も多くフナが生息し、時々釣りをしている人も見かけます。

この北堀の分水沿いにはアヤメ等が植えられた家もあり、道行く人の目を和ませてくれます。都道が通り風景が大きく変わりましたが、 田畑とともにいつまでも残したい水路のある風景です。

水路際の植栽

ゆるやかに S 字カーブを描き流れる水路

No.5 よそう森公園―田んぼのある公園

新町 3-10-45 付近

新町土地区画整理事業において市民のはたらきかけもあり公園内に田んぼがつくられました。田んぼでは農家の協力を得ながら、東光寺小の子どもたちや田んぼの学校により米づくりが行われています。また通常は区画整理事業により田畑とともに水路も激減しますが、ここでは素堀水路が残され、区画整理後、わずかですが水路長さが長くなりました。

かつてこの辺りは「八丁田」と言われるほど一面田んぼでした。“よそう森”という名は、塚から田を見渡し豊作や不作を“予想”したのでその名が呼ばれるようになったそうです。

公園内は植生も多様で、シュレーゲルアオガエルなどめずらしいカエルも生息しています。子ども達のかっこうの遊び場です。

子どもたちの田植え

昭和 30(1955) 年頃の八丁田んぼ (真野博氏所蔵)

No.6 水車堀公園

新町 3-43-2 付近

江戸時代から昭和まで日野市内には50 基以上の水車があり、 米や麦を搗いたり、製粉にしたりしていました。東光寺には日野市内では最大のひき臼のついた共同水車がありました。日野市内の水車は電化のため、昭和 30 年くらいまでに全てなくなりましたが、東光寺には場所の記憶を後世に伝えていくためにつき臼のある水車が新たにつくられました。市内には向島用水と2 か所の新造の水車があります。今後は水車を活用し、水車の回る水音とともにコットン、サクッという音を響かせたいものです。

東光寺台地下にある水車小屋

No.7 精進場（しょうじんば）―禊（みそぎ）の水辺

日野本町 7-6 付近

精進場付近（昭和 4 年　中嶋基宏氏所蔵）

親水整備された精進場

江戸時代、日野の渡しを経て訪れた富士山信仰の参拝者たちが、出発するときに身を清めた場所です。下堰 (仲田用水) と上堰の支線 (車堀) が合流する場所にあります。子どもたちのかっこうの水遊び場でもありました。現在は親水の場として整備され、水際まで下りられるようになっており、木製のベンチやデッキがあります。

下堰用水 (仲田用水) は第一中学校敷地内を経て、日野宿裏の段丘崖を下流へ流れていきます。校内を流れる用水の保全活動が生徒たちにより始まっています。

市民により創られる水辺のある公園

No.8 仲田の森蚕糸公園―新たな水辺の創造へ

日野本町 6-1 付近

仲田の森蚕糸公園はかつて国内の養蚕業を支えた研究機関「蚕糸試験場日野桑園（さんししけんじょうひのそうえん）」があり、現在でも当時の蚕室が一棟残っています。もともと水田だったことから公園内には下堰を分水した水路があり、水が流れています。公園は子どもたちの遊びの場となっていますが、市民により公園整備が進められており、用水もビオトープとして再生が期待されています。現在はまだ途中段階ですが、生きものが生息しやすい緑豊かな水辺になることと思います。

公園脇には地下 75m からポンプで汲み上げている地下水があり、仲田公園親水路に流しています。水汲みの人の多い場所です。また、道路を挟んだスポーツ公園内の木立の中にもかつての水路を活かした小さなせせらぎがあり、公園に潤いを与えています。

ポンプアップによる地下水の汲み上げ

市民の森スポーツ公園内のビオトープ水路

セキショウの中を流れる湧水（谷仲山）

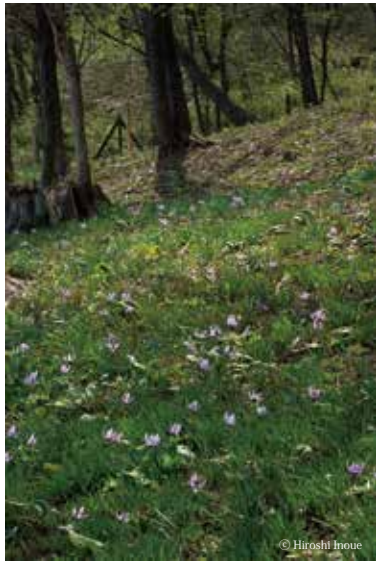
No.9 谷仲山・東光寺第一緑地―崖線からの湧水

東光寺：新町 3-33 付近
谷仲山：日野 3021 付近

日野台地崖線の各所から地下水が湧き出していますが、東光寺・日野エリアではこの 2 か所が貴重な湧水か所かもしれません。谷仲山緑地（民有地）の湧水地は安定した水環境により、セキショウなど水辺の植物が繁茂し、生きものも多く、最近では蛍も見られるようになりました。

東光寺第一緑地は日野台地の崖線中ほどから水が滲み出してくるのが観察できます。近年の都市化に伴い動植物は少なくなってきましたが、周辺にはカタクリが群生しています。この場所は市民や大学生などボランティアにより保全活動が行われています。

これらの湧水か所は市の清流保全条例により守られています。



湧水際のカタクリの群生（東光寺第一緑地）

No.10 日野用水上堰開渠

日野本町 2-16 付近

歴史ある日野宿の観光化をめざし、平成18（2006）年に日野宿再生計画がつくられました。その計画に基づき大昌寺から第一小学校脇まで、暗渠だった用水路を再び開渠としました。市民の要望により水辺の植物を愛で、生きものも観察できるよう水際まで下りられるちょっとしたポケット広場もできました。第一小学校脇は手すりが新しくなり、アスファルト舗装が一部タイルとなっています。

日野用水には近年では河川の水質が改善されたことで、多摩川のアユが遡上してくることもあります。

用水路沿いに貼られている昔の写真は、日野宿エリアで活動している日野宿発見隊の“まちかど写真館”です。写真を見ながら昔を懐かしんでいる人の姿に出会うこともあります。

手すりが改修された日野用水上堰（宿裏堀）

用水路沿いの”まちかど写真館”

No.11 日野宿を支えた用水

日野本町 1-13 付近

甲州街道沿いに日野宿が置かれたのは用水が流れていたことも理由の一つです。昭和 30 年代までは甲州街道をはさみ日野用水上堰 (宿裏堀)、日野用水下堰 (北裏川) 2 本の用水路の間に家が立ち並び、その外側に田畑が広がっていました。甲州街道沿いの敷地は短冊形に連なりウナギの寝床のように細長く、通りに母屋が面しその裏に庭や菜園があり、背後を流れる日野用水上・下堰までつながっていました。用水は生活用水、防火用水や時には舟運にも使われていました。今は敷地のほとんどが分割されてしまいましたが、現在も家の並びや蔵、あいの道など宿場の名残がみられます。そして甲州街道をはさむ 2 本の用水路も残っています。日野駅近くのこれらの日野宿の歴史的遺産をいつまでも残してほしいものです。

甲州街道から宿裏堀までつながる”あいの道”

No.12 多摩川―悠久の時が流れる水辺

栄町 2-31 付近

多摩川は、笠取山を水源とし、奥多摩の山々から水を運び人々と生きものに多くの恵みをもたらし、東京湾に注ぐ、全長 588 ｋｍの大河川です。日野はその中流域にあたります。

関東山地の山々と川の流れをつぶさに見ることができる場所が中央線鉄橋の上流です。鉄橋から少し上流、右岸の高い土手の上に立つと、眼下にはアユが泳ぐ流れ、上空には猛禽（もうきん）類が飛び交い、多くの生きものが繁殖している中流域の豊かさに浸ることが出来ます。立川側の白っぽい岸辺は、約 165 万年前の地層が露出したもので、ニホンシカとアケボノゾウの足跡を見ることも出来ます。昭和 36(1961) 年に上流の昭島ではクジラの骨が発見されています。同じ年にこの付近でもヒゲクジラの化石が発見されました。地層の歴史も観察できる貴重な場所でもあります。

立川側の岸辺に見られるアケボノゾウの足跡

ニホンシカの足跡　© Rokurou Inoue（上 2 枚）

ダイヤモンド富士を撮影する人々

多摩川は昭和 30 年代汚染がひどく、生きものが激減しました。再び川がきれいになり十数年前からアユも遡上するようになりました。多摩川のアユは江戸時代、将軍に献上されるほど格別だったそうです。立日橋そばにはアユ料理屋の玉川亭があり、アユは鵜を使い捕えていたそうです。

中央線鉄橋の辺りはかつて砂利の採取場でもありました。水深の深い場所があり、子どもたちが海水浴代わりに泳いでいました。鉄橋の橋脚部分には明治初頭に生産された日野煉瓦が使用されており、歴史的にも貴重な場所となっています。鉄橋そばは雄大な富士山や川沿いの夜景も素晴らしく、幻想的な雰囲気に浸ることが出来る場所です。

日野橋付近から上流を描いた写生　真峰清子 画

陸橋を渡る中央線と多摩川

多摩川夜景（立日橋）

日野煉瓦の橋脚

昭和 30 年代野多摩川での川遊び（志村章氏所蔵）

COLUMN

水辺の生きもの

井上 録郎
フリービデオカメラマン

浅川の水質が改善され、数年前大量のアユが戻ってきました。漁業組合の方の努力のお蔭で日野の豊かさが増えました。大変喜ばしいことです。

多摩川、浅川、日野用水、豊田用水等市内の水辺とその周辺には、水生昆虫・魚・昆虫・蛙等が居て、それを食べるイタチ・狸・猛禽類他の鳥・蛇等多くの生きものが生活をしています。私は、水辺を中心に数年間で水の中から空の上までの生きものを 300 種類以上撮影しました。写真は、教材として「食べるほうの生きものから食べられてしまう生きものの食物連鎖」の順に 560 枚を小学校の廊下に並べ展示しています。10 年先には大人になる子ども達に生きものに対する興味関心を高めてもらいたいことそして、日野市にはまだこんなに多くの生きものが居るんだということを知ってもらいたいという趣旨で市内の小学校を中心に巡回展を一年中開催しています。

今回選定された水辺の 50 か所には、生きものたちがいつまでも生きていってもらいたいという子どもたちも含めた日野市民の願いが込められています。

〈日野で見られる主な水辺の生きもの〉

哺乳類：イタチ　タヌキ　カヤネズミ
鳥類：トビ　アオサギ　ウ　カワセミ　ハクセキレイなど
両生類・は虫類：トウキョウダルマガエル　アマガエル　マムシ　アオダイショウ　ヤマカガシなど
魚類：コイ　オイカワ　カマツカ　アブラハヤ　アユなど
昆虫・赤とんぼの仲間：ハグロトンボ　アゲハチョウ　ベニシジミ　オオカマキリなど
甲殻類・貝類：アメリカザリガニ　スジエビ　モクズガニ　カワニナ　タイワンシジミなど

© Rokurou Inoue（下３枚）

日野四小での生きもの写真展示

ルリタテハ

ウナギの顔

No.13 豊田用水取水口―豊田用水の源

豊田 2-23 付近

平山と豊田をつなぐ平山橋のたもとは台地がせり出し、橋の東側に豊田用水取水口があります。豊田用水は浅川から取水し、段丘に沿い、北東へ流れています。崖線からの豊富な湧水が流れ込み、黒川水路と合流、残水は上田用水に流入します。途中、堀之内緑道で分岐し、一部緑道下を暗渠で流れ、日枝神社付近で浅川に排水します。支線も合わせ総延長約 13 ｋｍ（2008 年頃）です。

橋の西側に目を移すと豊田用水の導水堤が築かれていますが、深い淵があった場所で大名淵 (だいみょうぶち) と呼ばれていました。見晴らしのよい崖の上には豊田駅そばに別荘を持っていた安田善次郎 (安田財閥) の能舞台がありました。浅川対岸の大福寺下公園の桜並木は安田の寄贈です。能舞台から見る浅川、桜並木、丘陵の眺めはすばらしかったことと思います。

大名淵と導水堤

平山橋から上流を望む

No.14 豊田用水上流－風景をつくる用水

豊田 2-23 ～ 35 付近

豊田用水上流は石積み護岸で比較的水深も浅く、微高地、段丘崖沿いをゆったり流れています。「おおな」と呼ばれていた用水です。用水路沿いは生垣も美しく、桜の咲くころはいっそう華やかに水辺を彩っています。水路内はオオカナダモ、セキショウモなど水草も多くコイだけでなくアブラハヤ、カマツカなど小魚がたくさん泳いでいます。

30 年ほど前までは豊田用水沿いには水田が広がっていました。今は水田はなくなりましたが、水路はまちに溶け込み、人々の心に潤いを与えています。年 2 回春と秋に用水組合や最近では援農ボランティアの方々も手伝い堀浚いが行われています。

土地区画整理事業により大きく変わりつつある地区ですが、長い時間をかけまちに人々の心に馴染んだ用水路をまちづくりに活かして欲しいものです。

堰跡の残る豊田用水

No.15 ハケ (崖) 下の別荘

豊田 2-25 付近

明治以降、眺めのよい崖線周辺には都心に住まう人の別荘が建てられるようになりました。Ｊ邸は昭和 17(1942) 年に建てられたおそらく日野に唯一残る別荘建築です。背後の樹林に覆われたハケ (崖) 下には自噴井があり、小さなせせらぎから池を経て用水に流れこみます。前には豊田用水が流れ、水路との間に庭木がありますが、連続した一体感を感じさせます。かつては用水路の前には広大な水田が広がり、浅川堤、多摩丘陵が望め、走っている電車も見えたそうです。ハケと用水路を巧みに利用した別荘建築だということがわかります。

間もなく背後の崖線には国道が通る予定ですが、いつまでも残したい歴史的にも貴重な場所だといえます。

1944 年庭からの眺め－水田と丘陵地が望める

2010 年庭からの眺め

No.16 八幡神社下湧水 (中央図書館下湧水)

豊田 2-49 付近

日野には東京の名湧水 57 選のうち 3 か所がありますが、その内の一つがこの八幡神社下湧水です。中央図書館下湧水とも言われています。日野では 2 番目に流量の多い湧水で NBC の脇を流れ、豊田用水に流入します。かつて水車があった場所です。

八幡神社は矢崎地区の鎮守で、豊田の七つ森の一つです。現在は中央図書館が八幡神社の敷地内に建っており、図書館内からもその社を臨むことができます。八幡神社は若宮神社に合祀され、今は遙拝所として位置付けられています。

八幡神社下湧水は日野市の清流保全条例などでも保全対象となっています。土地区画整理事業地内にあるため、今後整備される予定です。湧水と崖線を活かした水辺となることが望まれます。

東京の名湧水 57 選の八幡神社下湧水

NBC の脇を流れる湧水

No.17 カワド (洗い場) のある家

豊田 4-8 付近

U 家の自宅敷地裏のハケ下からは水がこんこんと湧き、野菜など洗い物に利用されています。昔はもっと湧水量も多く、飲み水にも利用されていたそうです。「カワド」（洗い場）と呼ばれています。この水辺を活かした蛍の里を目指し、カワニナの飼育もおこなわれ、たくさんの子どもたちが観察に来るそうです。土地区整理事業地内ですが、湧水路沿いの散策道の構想もあり、ぜひ蛍も楽しめる道になって欲しいものです。

西側には隣接して豊田の七つ森の一つ惣身（そうしん）の森（白髭神社) があります。惣身の森、U 家の湧水は清水堀へと流れていきます。清水堀は崖線からの湧水を集め、豊田用水と並行し流れ、東豊田で合流します。

U 家のハケ下の湧水路

ハケ下の湧水池

歴史の風格を感じる石積や黒塀（2010 年ごろ）

No.18 用水沿いの黒塀の家

豊田 4-5

豊田用水沿いに豊田の歴史を偲ばせる黒塀や蔵、ケヤキの大木のある家があります。明治の終わりに行われた豊田の耕地整理や豊田駅誘致など地域の発展に尽力された Y 家です。日野の用水を紹介するパンフレットに必ずと言ってよいほど登場する場所です。明治の一時期豊富な地下水を利用してビールも作られていました。

残念ながら豊田の風景の一つとして親しまれていた黒壁の長屋は平成 26（2014）年 1 月に解体されました。さらに土地区画整理事業により家を囲んでいた生垣や浅川の石を使った重厚な石積みの塀も撤去されました。地域の歴史的資産をどのように残していくべきか考えさせられる場所です。

黒壁の長屋（2010 年ごろ）

No.19 清水堀と旧道のまち並み

豊田 4-14 他

清水堀は白髭神社の湧水を起点に崖線の湧水を集め、旧道沿いを豊田用水と並行して流れ、東豊田で合流します。その周辺には豊田の七つ森の八幡神社、白髭神社（惣身（そうしん）の森）、天神社、三嶋社、若宮神社などがあります。三嶋社は富士山の湧水豊かな三嶋大社に勧請しつけられましたが、今は痕跡しかありません。それでもわずかながら水が湧いています。

旧道沿いには立派なシラカシや〝樫ぐね〟が見られ、古くからの歴史ある道であることを感じさせます。そして清水堀から分かれ家々の間を流れる小さな水路には洗い場なども見受けられ、 生活に使われていたことがわかります。今は水路沿いに面し季節の花々が飾られ、道行く人の心を和ませてくれています。

民家の間を流れる水路

清水堀と豊田用水合流点にある馬頭観音

三嶋社湧水

H 家湧水

カフェの案内が置かれている水路

No.20 こだわりの橋の架かる水路

東豊田 1-34 他

東豊田公園脇を流れる用水路の多くは石積みの護岸で幅広く、比較的浅い水路が揺らぎながらゆったりと流れています。その水路には個性的な橋がいくつか架かっています。白塀の家には石の太鼓橋。どこか和風の趣です。ドウダンツツジの生垣の家にはレンガ張りで床が玉石仕上げのオリジナリティあふれる橋。こちらも太鼓橋です。脇には大きな洗い場のたたきもあります。さらに東へ進むとモダンなスチールの橋が架かっています。かつて共同水車があった場所です。水路に架かるこだわりの橋たちは、水路沿いのまち歩きを楽しくしてくれる要素でもあります。ガードレールが古くなっている部分がありますが、水辺景観に配慮した柵の整備が望まれます。

和風の太鼓橋

レンガ調の橋

No.21 東豊田の田んぼと水路のある風景

東豊田 1-41 他

川辺堀之内との境に東豊田に唯一残る田んぼがあります。周辺は宅地に変わりましたが明治の終わりに行われた耕地整理による田んぼです。田んぼ沿いの水路は石積み護岸で豊かな水を蓄え流れています。水草も豊富で小魚もたくさん泳いでいます。

川辺堀之内との境は段丘がせり出し、こんもりとした森になっています。館跡と言われるように見晴らしの良さそうな場所です。その段丘に沿い、東豊田から川辺堀之内へと用水は流れます。一部は分水し堀之内緑道下、日枝神社脇を流れ、浅川へと排水しています。

川辺堀之内を通る新たな国道により周辺がどのように変わっていくのか気になるところです。

水路沿いにつくられた堀之内緑道

堀之内緑道沿いの豊田用水はここで分岐し緑道下を暗渠となって流れ浅川へと排水する。

No.22 黒川清流公園

東豊田 3 付近

黒川清流公園は、認知度の高い人気の水辺スポットです。豊田駅に近く、多摩平の南に位置します。公園に接する日野台地の崖線各所から水が豊富に湧き、東京の名湧水 57 選にも選ばれています。湧水は黒川水路となり川辺堀之内へと流れ、豊田用水に流入します。黒川水路沿いには遺跡も多く、古い水路だということもわかります。

黒川清流公園はあずまや池から中央線まで東西約 600 mの長さで、昭和 60(1985) 年に公園整備されました。背後の崖線緑地は昭和 50(1975) 年、日野の自然を守る会のはたらきかけで約 6 万㎡が東京都の緑地保存地域として指定されました。日野の自然保護活動発祥の地といえます。クヌギやコナラなどの樹木、野草などの植物、野鳥、昆虫、水生植物など生態系も豊かで、自然観察場所として五感を働かせるのに最適です。『環境省　特別植物群落』、『日野市の植生重要自然地域』に選定されています。国土交通省の『手づくり郷土賞」にも選ばれ、自然を保全しながら公園として整備され、大人、子ども、家族で楽しめ、夏場は子どもたちの水遊びの場として賑わっています。現在、雑木林は東豊田緑湧会が下草刈や枝打ちの管理を行っています。

黒川清流公園内を流れる水は湧水の一部で、幹線は暗渠として流れます。中央線下を通り川辺堀之内で開渠となります。

黒川清流公園マップ　田中徹 画

山王下公園前の湧水

清水谷公園の湧水池

あずまや

大池

大池

黒川清流公園で水遊びする親子

道路沿いの水路

湧水の流れ

No.23 上田用水ー絵図に描かれた用水

上田 228 他 / 宮 248 他

上田用水は日枝神社そばの浅川から取水し川辺堀之内、上田、宮を経て万願寺 2 丁目根川大橋で根川（上流は日野用水）に合流します。途中、豊田用水が流入、日野用水もわずかですが流れ込みます。上田、宮あたりは江戸時代の絵図にもあり、比較的昔からの流れをとどめ、ゆるやかに揺らぎながら流れています。逆川（さかさがわ）と呼ばれる水路もそのままです。しかし川崎街道から東は土地区画整理事業により支線は無くなり、もっぱら雨水排水路となってしまいました。

上田には浅川の氾濫に備え昔は信玄堤（かすみ堤）があったそうです。昭和の初めごろ梨の栽培がはじまり、今でも梨やブドウの生産が盛んな地区です。

どうどめき分水

No.24 新井用水親水路

上田 415 他 / 万願寺 6-6 他付近

新井用水親水路

新井用水の取水口は浅川の堤防工事に伴い、昭和 57(1982) 年に撤去されました。流れる水は上田用水からの分水 (新田用水) です。その後上流には水辺の植物が植えられ、生きものの生息に配慮した水路として整備されました。万願寺の土地区画整理事業に伴い水路は整理統合されましたが、石積みの水路として整備され、特にふれあい橋近くの大木島自然公園の水辺では子供たちが生きもの探しなど楽しむ場となっています。

新井という地名は現在、浅川の南にありますが、元は浅川の北が新井の中心でした。今は用水に名をとどめるだけとなりました。

大木島自然公園の新井用水

No.25 根川下流ー桜の名所

石田 1 付近

日野用水は中央高速道路をくぐるあたりから準用河川 * の根川となります。根川は根川大橋で上田用水が流入、浅川水再生センターからも処理水が流入し、しばらく多摩川に並行して流れ、最後に合流します。雨水排水路でもあるため 3 面コンクリートの人工的な川ですが、下流は桜が植えられ、日野の桜の名所でもあり、春は花見客で賑わいます。さらに下流に行くと自然の緑豊かな場所となります。普段は訪れる人の少ない場所ですが、水辺に近づきやすくするなど工夫をすれば、親しめる水辺になると思います。

＊準用河川とは、一級、二級以外で市町村長が指定し管理する河川です。

© Hiroshi Inoue

桜の名所、根川

No.26 多摩川・浅川合流点

石田 1 付近

多摩川・浅川合流点（Google earth より）

日野は二つの河川、多摩川と浅川の浸食によりできたといっても過言ではありません。その河川が合流する場所は、地勢的なことだけなく、源流が異なる多摩川と浅川の二つの河川の歴史や文化が結合、 新たな日野の文化が生まれる地であることを象徴しています。

堤防ができるまで合流点は氾濫原のため一面河原でした。今でも空、山の稜線、川の空間とはるか遠望を見渡せるとともに川の表情、河原の植物、生きものなど豊かな自然を体感できます。

合流点に近い多摩川右岸は、多摩川河川環境管理計画において生態系保持空間に指定されています。

© Rokurou Inoue

正面は日枝神社の鎮守の森

No.27 浅川－日野の座標軸

左岸：川辺堀之内日枝神社付近
右岸：向川原堤緑道付近

浅川は八王子の関東山地東端の陣馬山を水源とする川で 12 の支流が流入し、八王子市、日野市を経て落川で多摩川に合流します。

川の良さはその空間の広がりです。街を流れる川はその自然性を取り込むだけでなく、大きな空間性（台地・丘陵―浅川―段丘）が街の風格を創り上げています。遠方からでも目に入る浅川の風景の一つに川辺堀之内の鎮守、日枝神社の森があります。樹齢 300 年以上というムクノキが一際目立ちます。川沿いにある神社ですが段丘がせり出す場所で、周辺より少し高いようです。この場所からは対岸の向川原堤緑道の桜並木も楽しむことができます。豊田用水の排水口と上田用水の取水口も近くにあります。

上田用水取水口

対岸のプールに渡るための駒形の渡し（2007 年頃）

土手の桜並木も街や川の風格をつくる一つです。大きく枝を伸ばしどこまでも連なり、一目千本の風景です。向川原堤緑道の土手からは関東山地の山並み、その向こうには富士山の高嶺を望むことができます。川という開けた場所があるから街に周りの景色や環境を取り込むことができるのです。

土手の桜並木は春を告げ、川面には鳥たちが集まり、夕日に染まり、川は時にその表情を荒げますが多くの市民に憩いの場として親しまれています。いつまでもこの広がりを失わないようにしたいものです。

向川原堤緑道桜並木

浅川でのアユ釣り

浅川で遊ぶ子どもたち

COLUMN

浅川一本、みんなで遊ぼう！

神保 エミ子 日野の自然を守る会

1988 年、日野市の清流週間で「清き水澄むまちに向け」の題で講演と発表の会が行われました。主催は水に関わる活動をしていた 12 団体が結成した「私たちの清流連絡会」で事務局は市の水路清流課 (現・緑と清流課) におかれましたが、市民の手による初めてのシンポジウムでした。当時は排水の流入などで水は汚れ、帰化植物が茂り水辺に近づけない状況でした。清流連絡会の活動は人が水辺を見直し戻ってきてくれること、親しめる水辺の再生を目的にしていました。用水路の清掃（よそう森堀）、水質調査（用水、浅川）自然観察会、清流週間行事（水辺フォーラム、水辺の資料館展示）を行い、1990 年から「浅川一本、みんなで楽しみましょう」と八王子の市民団体と手を組んで「浅川、川下りサバイバルレース」を開催しました。93 年には水郷水都全国会議たま大会に参加、各地の水団体と交流を深めました。同じ年に開催した円卓会議「水・そこが問題」ではダメモトでお願いした水分野で著名な講師の先生方、13 名すべて快諾され、後援の市を仰天させてしまいました。日野消連は用水と浅川水質調査の継続、浅川勉強会は程久保川のワンドの提言をし、建設省と話し合いを行っていました。

一つの輪が出来てみんなでやらなければね、という意識が高まった、熱気のある時代だったと懐かしく思い出します。強者どもの夢にしてはいけないと思います。

浅川、川下りサバイバルレース

No.28 さいかち堰上流沼・川北用水 – 吊り堰と鳥の楽園

西平山 4-4 付近

浅川堤防沿いの窪地に川北用水からの水が溜まり、沼ができました。沼の北側護岸はハケ（段丘の急斜面）のため住宅地から隔離されており、このため渡り鳥や水辺の野鳥の楽園になっています。浅川土手を散歩の際に足をとめる場所で、上村用水を取水していたさいかち堰の上流にあるため「さいかち堰上流沼」と呼ばれています。

このハケを横断して流れる川北用水は「関東の吊り堰」と呼ばれる土木遺構です。ここを経て上ノ町台地を潤しています。西平山一丁目の“うえのまち公園”の案内板に往時の農家の人々が度重なる洪水の脅威と戦い、この高台に灌漑用水（かんがいようすい）を引いたと記述があり、川北用水の歴史がうかがわれます。

さいかち堰上流沼

さいかち堰上流沼に集まる野鳥

No.29 上村用水―変わりゆく田園風景

西平山 3-2 ～ 9 付近

水辺（用水路）は農空間の基盤として地形を巧みに活かしながら水田地帯を潤していました。しかし街づくりのための都市基盤整備（道路等）が進むとこれら水辺は暗渠化され、開渠であっても人の寄り付けない単なる排水路になってしまいます。

ここに示した水辺は西平山地区の現在の水辺空間です。田んぼや畑を潤しています。また住宅地を流れる水辺は子供たちの格好の遊び場となっています。この上村用水は春と秋には用水組合の皆さんが堀浚いをしています。

明治末から昭和の初めまでこのあたりは水車街道と言われるほど多くの水車があったそうです。ぜひ残したい水辺ですが土地区画整理事業によりほとんどが暗渠になり残念ながら数年後にはその姿を消してしまいます。

川北用水を分水し、上村用水へ

滝合小学校通り沿いの用水で遊ぶ子どもたち

No.30 平山用水取水堰―平山用水の源

平山 5 -24 付近

浅川右岸の街を潤す平山、南平、高幡用水はこの平山用水取水堰から浅川の水を導水しています。高幡用水は程久保川に排水し、またわずかですが向島用水にも流入しています。

平山用水の開削は江戸時代に遡りますが、現在の取水堰や用水路は昭和 30 年代初期に用水組合によって整備され、凡そ 60 余年の長きにわたって浅川右岸を潤し水辺風景を維持してきました。時に台風、大雨で浅川の激流が導水堰を流出させ取水できないときでも維持管理がなされ、市民による原風景の保持が願われてきました。残念ながら平山地区からは田んぼはなくなり、一部土地区画整理事業などにより支線の廃滅や直線化した水路に変わりましたが、南平、高幡へと水を送り続けています。

平山用水堰

浅川内の導水堤

No.31 大福寺下公園ー桜並木の親水路

平山 5-49 付近

京王線平山城址公園駅南口広場付近には昔、大福寺という禅宗の寺がありました。鎌倉武士平山季重（ひらやますえしげ）が晩年この地で過ごし、この寺を開基したといわれています。明治６年廃寺となり大福寺の建物、日奉地蔵堂（ひまつりじぞうどう）など一部が宗印寺（そういんじ）に移転されています。その寺の名に因んだ公園です。

浅川沿いの桜並木は日野でも有数の華やかさです（桜は浅川対岸大名淵上に能舞台を持っていた安田善次郎寄贈）。その桜並木に沿って流れる用水は平山用水の支線で、親水整備されており子どもたちの水遊びやザリガニ捕りの場となっています。

水路沿いには数年前まで水田が広がっていましたが、土地区画整理事業により瞬く間に住宅が立ち並んでしまいました。その区画整理事業により近くには親水に配慮した出口公園がつくられています。

大福寺下公園の親水路

親水に配慮した出口公園

No.32 平山用水ふれあい水辺

平山 4-18 付近

都営住宅団地の南側を流れる平山用水はこの付近で２本に分かれ生態系、親水性に配慮したふれあい水辺となっています。近自然工法（粘土、柳枝工など自然素材で作られた水路）で造られた水路には多くの生き物が生息し、緩やかに蛇行した水路沿いにはサクラ、クヌギ、シイなど地域の植生に適した植物が植えられています。転落防止柵も木を使い環境にも景観にも配慮されています。傍の東公園の防災井戸からは地下水が常時自噴して水路に流れ込んでいます。夏場は子どもたちの水遊び場として人気のある公園です。生産緑地が隣接し丘陵と一体に感じるこの場所は平山、南平地域で大人にとっても子どもにとっても最も魅力的な水辺といっていいでしょう。

ふれあい水辺と桜

平山東公園の自噴井戸

No.33 南平の田んぼのある風景

南平 6 -27 付近

浅川そばの南平用水を引きこんだ唯一の田んぼです。この田んぼでは田んぼの学校など 3 団体が米づくりをしています。その一つ国際協力田では米づくりを通じて " 世界の子どもたちには食糧を平和に得る権利と分ける義務があること " などを学ぶ場になっています。

季節により田んぼに映る丘陵のシルエットや人々の賑やかな活動は、まちの大切な風物詩でもあります。また田んぼや畑は水循環にとっても重要で、田畑の消失は都市災害を起こすなど自然の循環機能を破壊することにもなります。

田んぼもこの原風景もここに集まる子どもたちの大切な財産です。大人たちはそれを守っていく義務があるでしょう。

田んぼの学校の稲刈りの様子

No.34 自噴井のある家

南平 7-18 他

平山や南平は浅川の伏流水や丘陵地を水源とする地下水が豊かで、南平には「土地に聞こえし名高き井戸あり、近郷三井と名ある井の一つなり」（『新編武蔵風土記稿』）といわれた名水もありました。しかし丘陵地の開発や市街化が進むにつれ水は枯れ、水道もできると井戸は無くなっていきました。それでもわずかですが平山や南平には自噴井があります。堰が壊れ浅川から取水が出来なくなると、この自噴水が貴重な用水の補給水となり、生きものにとっても命の水となります。写真の Y 家の自噴井は 2 か所有り、池に注ぎ、そのあと用水 (根田堀）に流入します。水舟も井戸そばにあり、洗い物に利用されていたことがわかります。1 か所は 3•11（東日本大震災）以後湧いてきたそうです。

根田堀に流れ込む自噴井の水。水舟も見える。

児童館通り水路沿いを彩る桜

ふれあいサロン前植栽

駅前ポケット広場

No.35 南平駅前・児童館付近用水―市民による水辺創造

南平 6 -14,16/7-14 付近

南平用水は比較的昔からの流れを留め、揺らぎ流れています。その用水沿いの用水敷に住民の手で季節の花々が植えられ、また用水沿いの庭には桜など花木が植えられ道行く人を楽しませている場所があります。このような用水沿いの美化とまちへの関心を高め繋げていこうと住民自らが水辺緑化推進に立ち上がりました。その活動が認められ、平成23(2011) 年度緑の環境デザイン賞において国土交通大臣賞を受賞しました。その成果が南平駅前用水のポケット広場整備とみなみだいら児童館敷地を流れる水辺の緑化整備です。ポケット広場は市民の手で花が飾られ、児童館の水辺では児童館と市民有志による生きもの観察など子どもたちへの遊びを通した学びが実践されています。

児童館用水路沿いの植栽

児童館通りを彩る植栽

駅前用水路沿い緑化

駅前ポケット広場と児童館

No.36 七生中学校自噴井―生きものを育む水辺

南平 7 -7

浅川沿いにある七生中学校内の井戸は一日 3,000 ㎥の地下水が自噴しています。昭和 39(1964) 年にプール用に掘られた深井戸 (約 80 m) ですが、水温が低すぎるため、そのまま浅川に放流樋門から滝のように流していました。平成 3 (1991) 年頃、魚が遡上できるようにと緩勾配の水路を河川敷につくり、井戸水を浅川に放流するようにしました。その水路には現在多くの生きものが生息しており、子どもたちの環境教育の場となっています。その後平成14(2002) 年にこの豊富な水源を利用して校内に水辺の生物生息空間 (ビオトープ) が整備されました。子どもたちの声が響きわたる水辺の空間は、心地よく安心感のある地域の場所となっています。

七生中学校の校内の自噴井

No.37 学校農園・ビオトープ―命を学ぶ水辺

南平小学校、平山小学校、滝合小学校

水辺の生物生息空間（ビオトープ）では水生植物やプランクトン、小さな魚、昆虫などが一つながりの生態系であり食物連鎖を維持していること、そこから自然環境の成り立ちとそのシステムを学びます。また学校内の田んぼでは農家の協力を得ながら子どもたちにより米づくりが行われ、田んぼの生きものについても学びます。南平、平山地区の全ての小学校にはこのビオトープがあります。

【滝合小学校】ビオトープで植物・生き物観察。自噴水を水源とし、水田では古代米づくり。
【平山小学校】ビオトープで生態系について学ぶ。
【南平小学校】水源はポンプアップですが、水田では米 (ひとめぼれ) づくり。ビオトープで観察学習。

南平小学校のビオトープと田植え

平山小学校のビオトープ

No.38 南平用水・谷戸川―絵図に描かれた用水

南平 4 -14 他

高台の寿徳寺下を流れる用水は沢の水を集めながら浅川に流れ落ちます。その地形に従う水の線形は平村絵図 (天保 14 年) とあまり変わりません。玉石積の擁壁や民家、大木となった庭木、丘陵の起伏や緑、沢水、道野辺の地蔵などが絡み、かつての集落を偲ばせる雰囲気の場所です。

丘陵を背後に抱える平山、南平は沢水の恩恵を受けてきました。それは水田を潤す大切な水源でもありました。沢水が用水に流れ込む場所を “樋口（とよぐち）” と呼び、旧道と交差する沢水には橋が架けられその坂下橋の近くの屋号は “ はけ ”“ 台坂 ” など地形に因んだ家があります。かつて南平には 8 つほどの谷戸川がありましたが今は道路になっています。

平村絵図　天保 14 年 (1843)　　(個人蔵)

旧道と沢水の交わるところに立つ坂下地蔵
橋工事で亡くなった人を祀る

高幡用水へ分水した南平用水は高幡用水の下を流れ浅川へ排水

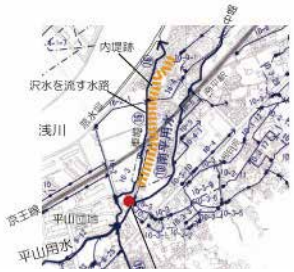
No.39 用水の分水・立体交差ー巧みな水路システム

南平５他

用水の配水システムの工夫を見ることができる場所があります。平山ふれあい水辺の東では平山用水の上を丘陵地からの沢水が交差しています。丘陵からの土砂混じりの濁り水が用水に入らないようにするためです。このあたりは平山用水から南平用水に分岐する場所で用水銀座と言えるほど用水が集まっています。丘陵方面に向かう中堀、浅川に排水される車掘、国際田んぼに注がれる川原掘、丘陵から流れ込む真根郷悪水路（まねごうあくすいろ）があり、この要の場所には昭和 10 年ごろまで田中の共同水車がありました。

南平用水の排水門近くには京王線下、高幡用水へと分水している場所があります。浅川の河床低下で高幡用水の取水ができなくなったためです。高幡用水は程久保川に注ぎますので、浅川の水が程久保川に流入することになります。

平山用水と沢水の立体交差



用水路の集まる用水銀座

COLUMN

南平・水辺風景の変遷

清水 守男
南平・緑と水のネットワーク

南平はかつて農村地帯でありました。浅川堤から多摩丘陵の裾まで一面の水田風景が広がっていました。用水は中堀、車堀、川原堀、根田堀などという堀名に分かれて流れ、豊かな水辺の里でした。ホタルやドジョウ、フナなどが多数棲息し、子供たちの遊び場でもありました。その用水路は村人総出で「堀さらい」を、村道路は「道普請」という毎年の行事で管理、保全に務めておりました。村人同志の深い絆が感じられました。丘陵からも四季を通して湧き出水が根田堀に流れ込んでおり、山の谷間から流れ出る８つの谷戸川がありました。今は都市化が進み消滅しておりますが今も残る貴重な湧水の谷戸川はかつての俗名で真根郷水道、背戸の谷戸川、沖の谷戸川、恵比寿谷戸川など４つがあります。この清流にもサワガニ、シジミ、サンショウウオなどが棲息していたといい伝えられています。しかし今、田畑は激減しています。貴重な水田、用水路、森は貴重な自然環境として保全に努めていかなくてはならないと感じます。童謡ふるさとの「山は青き故郷、水は清き故郷」こそが豊かな市民の心を育てます。かつての日野、南平の水辺の風景を振り返り「水都日野」を目指して市民が力を合わせ豊かな街づくりを推進しましょう。

■南平駅周辺の風景（S30 年頃）

七生中の通学路であった南平駅北側水路沿

南平駅北側の南平用水路

南平駅南側の水田風景

COLUMN

水辺の植物

田中 徹
森林インストラクター

日野にはまだ比較的緑が残されています。私は緑の仲間と「残したい日野の緑」のマップ作りをしました。市民の皆さん約500人から132か所428件もの「残したい緑」「好きな緑」の貴重な情報が寄せられました。黒川清流公園が第1位に選ばれるなど、今回の水辺50か所の選定と一致する場所が他にも多いのは水と緑が一体となった風景が心地よさや癒しの効果を与えてくれるからだと思います。

日野市でも緑の減少が続いています。水辺の貴重な植物も残っていますが、絶滅危惧種に指定されたものもあります。

水辺の植物は、水辺のさまざまな場所によって、その環境に合った種類が生育しています。人の生活と近い場所ならよく見られる特徴ですが、日野市の水辺でも、外来種のなかに、在来種以上に繁殖し広がっているものもあります。

天から授かった「水と緑」の日野の自然遺産を後世に残したいものです。そんな想いにかられ私は3年前に「黒川清流公園」「豊田の湧水と用水」の手作りの散策マップを作りました。昨年には「黒川清流公園徒然雑記」の名でホームページを一般公開し、自分の身近な『水と緑』を発信することにしました。市民の皆さんが自然に接し、自然保護にも役立てればと願っています。（後世に残したい「日野の好きなみどり」は日野市ホームページに掲載中です）

【日野の水辺の植物】
《河川敷、河原、堤防、土手》
樹木：オニグルミ、ヤマグワ、ニセアカシア＊、エノキ、ヌルデ、イボタノキ、ヤナギ類
草：ヨシ、オギ、ススキ、アレチウリ＊、クズ、ネジバナ、ハルジオン＊、ヒメジョオン＊、ウマノスズクサ、イヌムギ＊、ネズミムギ＊、ギシギシ、アレチハナガサ＊ 等
《湧水地、湧水の流れ沿い》（黒川清流公園が代表的な場所）
樹木：ハンノキ（根元が水に浸るような場所にも生える）、アブラチャン、ミズキ
草：キセルアザミ、ツリフネソウ、カキラン、コバギボウシ、オランダガラシ＊（クレソン）、ノハナショウブ、チダケサシ、セキショウ 等
《用水、田や畦道》
草：オオカナダモ＊、カンガレイ、アメリカタカサブロウ＊、ミゾソバ、セリ、ゲンゲ（レンゲ）、ハハコグサ、ナズナ、ヒガンバナ、スズメノテッポウ 等 （＊印-外来種）

No.40 ふれあい橋・向島用水取水堰

万願寺 5

「ふれあい橋」は平成3(1991)年にできた歩行者専用の橋です。橋の完成で万願寺から高幡不動駅へ出るのが大変便利になりました。

橋からの見晴らしはすばらしく、日野でも有数の富士見スポットになっています。川辺には親水ステージがあり、お天気が良く暖かな日には水辺に多くの人が集います。

ふれあい橋上流には堰があり、向島用水の取り入れのための取水口があります。砂利の導水堤が築かれていますが、洪水で決壊すると用水路に水が流れなくなり、水路が干上がることがあります。堰付近は浅川潤徳水辺の楽校のフィールドでもあり、浅川プールでは子どもたちが水遊びに興じたり、生きもの探しの場となっています。

向島取水堰・浅川プールで遊ぶ潤徳水辺の楽校

ふれあい橋ステージは人々が集う場

No.41 向島用水親水路―生きものにやさしい水辺

新井 923-1 付近

用水路沿いにある全長約500mの遊歩道には雑木が植栽され、森林浴が楽しめます。子どもが水辺に下りやすいように配慮され、水遊びや魚捕りが楽しめます。運がよければカワセミも見られます。

水路はかつてコンクリート護岸でしたが、親水路として再整備が行われました。コンクリートを取り除き、木杭や植生ロールを用いるなど、生きものがすみやすいよう工夫されています。

隣接する潤徳小学校の敷地まで用水を広げ「トンボ池」も造られました。小魚やそれを狙う鳥に出会える場所で、子どもたちの遊び場でもあります。また、その様子をトンボ池のそばに架かる「ほほえみ橋」や遊歩道から地域の人たちが見守る光景も見られます。

途中には水車やあずまやがあり、休憩スポットも充実。平成7（1995）年に造られた水車小屋には小屋の中に杵（きね）も設置されており、市民により水車を使った精米実験や勉強会が行われています。遊歩道から向島緑地に入れば、野鳥観察やどんぐり拾いができる雑木林が待っています。

■向島用水親水路の整備前と整備後

潤徳小学校裏

潤徳小学校裏

トンボ池

トンボ池で生きもの観察中

水車を使っての発電実験

No.42 新井の田んぼと水路のある風景

新井

新井は日野市の農あるまちづくりの拠点となっており、南新井、新井交差点付近には田んぼがまとまって残っています。新井の生ごみリサイクル農園では生ごみをたい肥化し、野菜づくりをしています。老若男女多くの住民が集う場です。畑は数年前までは田んぼだったため市の方針もあり素堀りの用水路が残され、水路沿いは生態系豊かで春は七草摘み、夏は子どもたちの水遊びや魚捕り、秋は真っ赤な彼岸花・・・など、四季折々に訪れる人たちを楽しませてくれています。

昭和の中ごろまで、このあたりは見渡す限り一面の田んぼが広がっていました。田んぼから富士山も見えたそうです。南新井には「潤徳小の田んぼ」があり、子供たちの農業体験の場ともなっています。

用水で遊ぶ子供たち

南新井の交差点付近の田んぼ

モノレールからも田んぼが見える

麦刈り

児童館親子と保育園児とサツマイモの定植

水車でイモ洗い

子供たちの学びの場

No.43 新井の微高地を流れる用水

新井 424 付近（京王線高幡不動駅より東へ徒歩約 10 分）

微高地の集落

浅川や程久保川の堤防が整備されるはるか昔から、周辺より少し高いところにある集落の農家です。塀に沿う向島用水の支線の流れを見ると、高低差を実感できます。用水路には田へ分水する堰もあり、よく手入れされています。

周辺には田畑がまとまって残っており、宅地の中のオアシスです。

宅地に囲まれた田んぼ　© Rokurou Inoue

No.44 小沢緑地湧水

三沢 2-15 付近

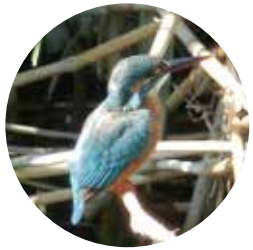
三沢泥岩が露出している場所で、日野市唯一の小さな滝があり、丘陵地の湧水の代表です。

百草団地より川崎街道に出る谷沿いの細い道で、百草園駅への近道にあります。大規模開発団地と自然の森が隣合う境界線上にあり、現在は環境保護のため人が立ち入る事は出来ず、湧水は柵の中なので通常は見ることができません。

自然公園として整備される事を望む意見もあるようです。

環境保護のため一般には立ち入れません

湧水の中のサワガニ



No.45 程久保川遊歩道とワンド

百草

程久保川は七生丘陵に刻まれた谷を源流とする一級河川です。谷戸田を潤しつつ蛇行して流れていましたが、昭和 40 年代、洪水対策のためコンクリート護岸に改修されました。このとき川は直線化され、堤防が高くなり、子どもたちが降りて遊ぶことが難しくなりました。そのかわり川沿いには、市民の要望を受けて土の地面も含む長い遊歩道が整備されました。雑木林の樹種やサクラなどが植栽され、季節を感じる散歩道として市民に親しまれています。

遊歩道を歩いていると、程久保川の所々にミゾソバ（牛革草）の群生地を見る事ができます。ミゾソバ（牛革草）は、新選組副長・土方歳三の生家が製造・販売していた石田散薬の原料です。

一方、多摩川との合流点には、市民提案により、人工的にワンド（緩やかに蛇行する小川）がつくられました。護岸に穴を開けて程久保川からの流れを取り込んだものですが、当時としては前例のなかった「一級河川の堤防に穴をあける」という工事を、市民と行政が尽力して実現させたのです。

この取り組みにより、現在程久保川ワンドには豊かな生態系が形成され、小川には多くの魚が、周辺には豊かな植生とそれを利用する小動物や鳥などが見られます。

この自然豊かな場所をこれからも大切にしていきたいものです。

程久保川ワンド　© Rokurou Inoue

生きものに配慮した公園

No.46 落川公園－水に囲まれた公園

落川 2012 付近

落川公園は土地区画整理事業でつくられた生きものに配慮した公園です。程久保川から取水した落川用水を公園の外周に回し、水辺に近づきやすくし、ザリガニ捕りや水遊びが楽しめます。休日には見通しのよい芝生の広場は親子連れでにぎわっています。　公園北には落川の貴重な田んぼもあります。脇には一の宮用水が流れていますが、一の宮用水は程久保川からポンプアップでくみ上げ、ここで落川用水と合流し、多摩市の田んぼまで流れていきます。公園の上流は民家の間を流れているので一般に知られていませんが、素堀りの用水で小魚の多いところです。ザリガニ捕りの名人の子どもたちには穴場のようです。

落川用水が一ノ宮用水に合流するところ

民家の間を流れる用水

No.47 真堂が谷戸

百草

クヌギ、コナラなどの雑木林と湧水があり、この付近には市内では珍しくなった蛍が生息しており、エビネなどの貴重植物も自生しています。20 年以上前に蛍が生息していることが確認され、調査が続けられてきました。

この地域においても、開発の波が押し寄せてきたことから、市民を中心に雑木林と蛍を保全する活動が起こりました。現在では「真堂が谷戸蛍の会」が結成され、維持保全活動の一環で、昔ながらの水田も復元されました。これにより蛍の棲みやすい生態系豊かな自然環境が保たれています。

真堂が谷戸の水田

No.48 三沢の小さな棚田

三沢 2 付近

この棚田は南側の百草山緑地からの湧水を貯水池に貯め、七枚（約一反）の棚田に配水する独特の仕組みになっています。この仕組みはこの地で耕作を始めた 450 年以上前の江戸時代以前から続いており、地形や自然の恵みを生かしたものとなっています。また、稲刈
棚田にはレンゲの種が蒔かれ、春には一面
咲かせます。レンゲは種を採取した後、作
ぼにすき込まれて肥料として活用されます。
用しない栽培方法をとっているため、カエ
ナゴなど、たくさんの生物を見ることができ

© Hiroshi Inoue

倉沢に残る田んぼ

No.49 倉沢の田んぼのある風景

百草 731 付近

里山の原風景を彷彿させる倉沢の雑木林や田畑は農家、住民、行政の方々の努力で保全されて おり、日野市民にとって貴重な財産となっています。この風景をつくった倉沢川は今は道路や緑道の下を暗渠として流れ、大栗川に注ぎます。

丘陵地の畑や谷戸の田んぼでは農家と市民が一緒に田畑を耕し、野菜を収穫し、自然の恵みを楽しんでいます。丘陵地の自然も市民団体により維持管理が行われています。

近年、里山をこのまま残したいという地権者の思いから多くの雑木林が公有化され、丘陵地の環境・景観が守られてきています。雑木林には雨水を保ち、濾過し、清浄にしてくれるという役割もあります。水源涵養地としてとても重要です。

萬蔵院台の畑

倉沢川緑地

No.50 程久保川源流

程久保

程久保川は、日野市内七生丘陵に源を発し、日野市で多摩川に合流する長さ5.5ｋｍの一級河川です。

元々曲がっていた川は直線化・コンクリート護岸化されてきましたが、京王線多摩動物公園駅より上流には、日野市で唯一、コンクリート護岸されていない自然河床が残されています。

随所にナメ床＊があり、山側からは湧水が滴る、河川源流の美しい景観が見られます。

一級河川上流端のさらに上流では、周辺の雑木林や畑地と一体となって、里山の原風景を残しています。

＊「ナメ床」は、青灰色の粘土質の地層が川の流れによって露出したもので、「青ナメ」とも呼ばれています。
多摩動物公園駅～一級河川上流端付近で随所に見られますが、残念ながら近づくことのできる場所は限られています。

源流部では小川のような流れ

程久保川「ナメ床」

日野市の子供たちによる

水辺50選 ポスターギャラリー

滝合小6年　伊藤 響

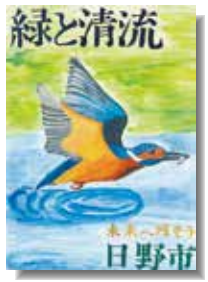
日野第一中 1年　奥住 詩帆

東光寺小 6年　湊 美央

三沢中 3年　富所 貴大

日野第二中 1年　西村 胡桃

日野第三小 6年　福川 楓



日野第六小 5年　青山 麻里

日野第六小5年　須藤 里菜

日野第一小 6年　村山 もも

日野第六小5年　初澤 萌

滝合小 6年　佐藤 湧太

日野第二小 3年　髙見 光佑

日野第六小 5年　石川 敦啓

潤徳小6年　箕浦 佑華

日野第三中 2年　新村 まな

三沢中 3年　渡邉 美楓

三沢中 3年　加須屋 京介

日野第三中 2年　辻 晃大

三沢中 2年　鶴谷 純乃

三沢中 3年　重山 真里奈

平山中 2年　中平 羽南

旭が丘小 6年　松橋 美咲

仲田小 5年　渡辺 寧音

仲田小 5年　酒井 陽菜

東光寺小 6年　佐野 惟知

日野第三中 2年　岸 あやか

三沢中 3年　大間知 毬菜

平山中 2年　ロドリゲス 慧海

日野第三中 2年　上松 和音

三沢中 3年　伊藤 冴枝子

番外編（記憶に留めたい、訪ねてみたい水辺です。）

①谷地川を横断する日野用水

栄町 5-22 他

谷地川を横断する日野用水上堰

石川堰

かつて日野用水上堰は谷地川に一旦落とした水を取水していました。洪水対策の改修後、谷地川はまっすぐに、そして深くなり日野用水は川を横断することになりました。かつての蛇行した谷地川は栄町５丁目と八王子市小宮の間に緑道として残っています。近くには日野用水の水量調整の石川堰があり、旧谷地川を多摩川へ流れています。この辺りは水量も多く川のような流れです。

②段丘崖を流れる日野用水下堰

日野本町 7-5 付近

北裏川と言われ、日野宿を支えた用水です。甲州街道から普門寺の脇を通り日野第一中学校に向かうと緩やかな傾斜が続きます。この段丘崖に沿って日野用水が東へ流れています。地形と用水路の関係を残す貴重な場所です。日野宿再生計画により手すりなど景観にも配慮されています。

下流へ進むと水草も植えられ、小魚も多くみられます。

③変わりゆく水田風景

川辺堀之内 127 付近

日野の農の拠点の一つでしたが土地区画整理事業や新たな道路建設により田んぼはほとんど無くなりました。

石積みの護岸でガードレールも無く、洗い場のある水路など今ある水辺を活かした区画整理事業にしてほしいものです。

2011 年ごろまでの川辺堀之内の田んぼのある風景

辻にあるお地蔵さま

川辺堀之内の水路のある風景

④変わりゆく里山の風景

川辺堀之内 493 付近

右手には保全されている斜面緑地。周辺には横穴墓古墳が多く発掘されている。昔は水路でヤツメウナギもとれたという。

散歩道として親しまれている旧道

黒川清流公園の湧水が流れてくる窪地で「原ノ八ツ」と呼ばれ、現在は畑になっています。水は澄み、崖線緑地は保全され、里道は夏涼しく市民の散歩道として親しまれています。残念ながら川辺堀之内の区画整理事業によりいずれは宅地に変わる予定です。

⑤消えゆく湧水－西平山八幡神社

西平山 1-23

西平山八幡神社も歴史ある湧水地で、湧水は周辺の畑にも利用されていましたが、開発でほとんど湧かなくなりました。湧水そばには弁財天（鮫綾源から移設したと言われる）もあります。また湧水が復活して欲しいものです。

⑥樹林の中を流れる用水－落川交流センター

落川 1400

向島用水の支線が落川交流センター南側を流れています。素堀の水路を樹木が覆い、住宅街の中とは思えないほどです。カワニナも生息しており、いつか自然のホタルが再生してほしいものです。

⑦親子で賑わう水辺－東豊田公園

東豊田 1-33

東豊田土地区画整理事業により新たにつくられた公園です。用水を取り込んだり、地下水も汲み上げ公園内に水辺をつくっています。クヌギなど樹木も植えられ将来は豊かな森になりそうです。休日は親子づれで賑わっています。

水辺 50 選プロジェクトの進め方

本プロジェクトは、2013 年 6 月 29 日のキックオフフォーラム「日野の宝、守るべき水辺とは」から始まりました。フォーラム参加者や水辺に関心ある市民の皆さん、行政職員、法政エコ研メンバーにより水辺 50 選ワーキンググループが結成され、水辺の選定を進めていきました。選定は 2 段階で行われ、まず次の 4 つの方法で市民の皆さんが大事だと思う水辺を募集しました。①日野市内を 4 エリアに分けワークショップを開催し、それぞれのエリアから水辺候補を募集、②広報による募集、③子どもたちから清流ポスターにて募集、④歴史資料や既発行のマップなどから重要な水辺を収集。以上の方法から 84 ヶ所の水辺が集まりました。次に候補水辺を 11 月 4 日のふれあいホールで開催された日野市制 50 周年記念イベントにてパネル展示し、来場された市民の皆さんに「知りたい、行きたい、残したい」の視点で水辺のアンケートを行い、50 選の選定の参考にしました。パネルはそれぞれの水辺を歴史、環境、景観、市民活動、観光などの点から評価を行い、特徴を明らかにしました。

ワーキンググループで水辺 50 選を選定しましたが、同じテーマを持つ複数の場所や川など広い範囲を一つにカウントにしている場合もあります。番外編に記録の意味も込め消えゆく水辺を掲載しています。それでもなおこの冊子に掲載できなかったたくさんの水辺があります。この冊子は多くの市民の皆様に日野の水辺を知って頂くために作成しました。ぜひこの冊子を手に、水辺を訪ねてみていただけると幸いです。（水辺 50 選ワーキンググループ）

日野市 HP:http://www.city.hino.lg.jp/index.cfm/1,html『水都日野　水辺のある風景　日野 50 選プロジェクト』
参考文献：法政大学エコ地域デザイン研究所『水の郷日野農ある風景の価値とその継承』（2010）
日野の昭和史を綴る会『日野市旧桑田村の地名』（2012）
日野の昭和史を綴る会編集『日野市郷土資料館講座 - 村絵図を楽しむ』1（2009）～ 5（2010）
日野市水路清流課日野『水辺ガイド　水の里めぐり３０景』（1991）

◆写真提供者（広報での募集にお寄せいただいた方・冊子に写真を掲載頂いた方）
荒木光子　有久喜久雄　泉芳夫　井上博司　井上録郎　上野さだ子　梅田明良　江本俊信　久野暢彦
後藤昭夫　児山由美子　佐伯直俊　佐藤美千代　神保エミ子　多田啓介　田中徹　冨岡留雄　根津陽一
長谷川寛　畠山秀保　羽生田正人　本多信　真峰清子　三村聡　村岡明代　山本彰三　上村耕平　長野浩子
中央公民館　日野図書館　南平小学校　子どもへのまなざし

◆水辺 50 選ワーキンググループメンバー
泉芳夫　井上博司　井上録郎　梅田明良　江本俊信　後藤昭夫　児山由美子　酒井哲　佐藤美千代
神保エミ子　高橋英昭　多田啓介　田中徹　冨岡留雄　冨岡正子　根津陽一　野澤一弘　長谷川寛
畠山秀保　本多信　三村聡　村岡明代　山田美和子（以上市民５０音順）
永瀬克己　浅井義泰　長野浩子　上村耕平　小松妙子（以上法政エコ研）
坂田勉　原正明　平義彦　窪寺昌司　渡部孝志　阿川務　原田洋平　新井裕貴　大和田一政　片岡明久（以上日野市）

[企 画・構 成] 法政大学エコ地域デザイン研究所
[編集メンバー] 井上博司　井上録郎　児山由美子　神保エミ子　多田啓介　田中徹　長谷川寛
畠山秀保　三村聡　村岡明代　永瀬克己　浅井義泰　長野浩子　上村耕平　小松妙子
[編　　集] 長野浩子　上村耕平　児山由美子
[表紙デザイン] 児山由美子